



ツリガネムシやミジンコはなぜすきとおっているの

ミジンコもツリガネムシも水にすむ小さな生きもの

ミジンコは、体長^{たいちよう}1～2.5ミリメートルで、体は卵形^{からだ たまごがた}の二枚^{に まい}のからで包まれています。^{つつ}
 水^{みず}の中^{なか}でくらすプランクトン^なです。ツリガネムシは、つりがね形^{がた}をした、たった1つの細胞^{さいぼう}
 と、柄^えからできています。柄^えで水中^{すいちゆう}の植物^{しよくぶつ}、石^{いし}、ごみ片^{へん}などにくっついて生活^{せいかつ}しています。
 大きさは、0.04～0.2ミリメートルです。

ミジンコもツリガネムシも、水^{みず}の中^{なか}の生きもの^いですから、体^{からだ}を支える^{ささ}がんじょうな作り^{つく}はいりません。うすくても、だいじょうぶなのです。

小さいものは軽くて、うすいつくりになる

体^{からだ}のつくりが大きい動物^{おお どうぶつ}は、大きな体^{おお からだ}を支える^{ささ}ために、がんじょうな骨^{ほね}、分厚い皮^{ぶあつ}ふをも
 ち、それを動か^{うご}かすための筋肉^{きんにく}も強^{つよ}くなくてはなりません。逆に、小さい生き物^{ちい い もの}は、小さな
 運動器^{うんどうき}で生きられるので、軽^{かる}くてうすいつくりなのです。

ミジンコもツリガネムシもとても小さく、しかも、水^{みず}の生き物^{い もの}です。すきとおるのは、このためです。(監修・中山 周平)

